

病みゆく子どもたち

水谷 修

mizutani osamu



私は、十四年前に横浜市の定時制高校に勤務して以来、「夜回り」と呼ばれている深夜の繁華街でのパトロールを続けてきました。そのパトロールを通して知り合ったさまざまな問題行動を起こす、あるいは起こした子どもたちや、勤務する定時制高校での生徒の問題行動に、生徒指導担当の教員として、一人の教員として、また、一人の大人の人間とし

て対応してきました。それらの問題行動は、万引き・窃盗・強盗から性非行・性犯罪、薬物乱用、果ては殺人未遂まで多岐に及びました。

そして、その問題行動には触法行為、あるいは犯罪という共通点がありました。私は、彼らを「夜の闇に沈む子どもたち」と呼んでいます。彼らの更生には、まず彼ら自身がし

てしまった問題行動が、なぜ問題なのかを理解させ、そして犯した罪を償わせ、新たな生き方を共に生き合い、探していくという生徒指導が必要でした。根気のある指導でしたが、彼らが明日を求め始め、昼の世界に戻る姿を見ることは、この上ない喜びであり、幸せでした。決して楽な仕事ではありませんでしたが、楽しい仕事でした。

現在の私たちの社会は、人を認め合う社会ではなく、人と人が責め合う社会、攻撃的な社会になっています。私たち教員ですら、仲間に対して、「あいつは、何をやっているんだ」「そんなことでどうするんだ」と責め合っている、生徒たちに対して、「こんなことをしてどうする」「そんな成績じゃ、どこにも進学できないぞ」と責め合うことが続いています。上司は部下に、部下は家庭で妻に、妻はその子どもに……。攻撃が下になりにと連鎖しています。

でも、子どもたちはだれを攻撃してうつぶしを晴らせばいいのでしょうか。同級生をいじめること、あるいは殺すことで……。動物や生き物を虐待することで、うつぶしを晴らせばいいのでしょうか。すでにそうしている子どもたちもいます。そのように責められ、攻撃されても、私たち大人は家庭で、あるいは夜の町の仲間との一杯で気をまぎらわせ、また次の日を何とか過ごしています。しかし、大人たちのように、息抜きやうつぶしを晴らしをお金やお酒の力を借りることができない子どもたちはどうしているのでしょうか。

いま、この攻撃的な社会のなかで、学校や家庭で日々批判され、自己肯定感や自信を失った子どもたちのなかにも、まだ生きる力をもっている子どもたちは、夜の町に出ます。彼らを評価せず否定する昼の世界に背を向け

て、夜の町でたむろし、仲間を作り、そして非行集団や暴走族として大人たちに対峙してきます。彼らは一人では、大人に勝つことはできません。そのために集団を作ります。

また、昼の世界に背を向けて夜の町に出てきたけれど、大人に対抗するほどの元気のないう子どもたちは、暗がり集い、夜を過ごしていきます。そんななかで、寂しさに埋もれそうな少女たちは、中高年の性の対象となり買春されています。そして、その偽りのふれあいに一時の救いを求め、実はさらに傷ついています。

しかし、家庭や学校で傷つけられた子どもたちのなかで、そのような子どもたちより遙かに多くの純粋で優しい子どもたちは、自分を責めています。「私が悪いから責められた」「私なんかいいほうがいいんだ」「もうみんなに迷惑はかけられない」……。すべての問題を自分で抱え込み、その重圧に夜も眠れず、一人、夜の暗い部屋のなかで苦しみ、自分を傷つけ、あるいは市販の薬や処方薬をOD(過剰摂取)して、何とか生き抜いています。私は「夜、眠れない子どもたち」と彼らを呼んでいます。

現在の日本では、ほとんど、すべての中学校や高等学校にこのような問題で苦しんでいる生徒がいます。その数は一〇〇万人を超えた、と指摘する専門家もいます。親や教員が

夜ぐっすり眠っているときに、インターネットやメールに生きるための救いを求めながら、カミソリやカッターナイフを手にして、自分の手首を切ることで生き抜こうと苦しんでいる子どもたちもいます。明日を生きるために……。

このような深刻な状況にあっても、多くの大人たちはさらに子どもたちを追いつけていきます。法や条例により、彼らを夜の町から追い出し、また、リストカットをする子どもたちからカミソリを取り上げています。あらゆる現象には、それにいたる原因があります。現象だけを押しさえても、その原因を解くことなしに問題の解決はないのではないのでしょうか。すなわち、いま「病みゆく子どもたち」の問題の解決には、私たち大人の一人ひとりが、子どもたちに寄り添い、彼ら一人ひとりが抱え込んでいる問題をともに解決していくことと、日々優しさと愛を子どもたちに注ぎ続けることで彼らを支えていくことが大切だと私は考えています。ぜひ、子どもたちに優しさを。すべての子どもたちの目に、明日への輝きを取り戻されるときまで。

子どもたちは大人たちからの救いの手を待っています。

(みずたに おさむ・元高校教師)
著書に『夜回り先生の卒業証書』日本評論社